

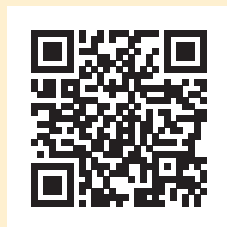


生産分野向け試験 国内最大級資格!!

生産現場の最強ツール

かんたん早わかりガイド

自主保全士認定制度



公式サイト：<https://www.jishuhozenshi.jp/>

自主保全士全般に関わるお問合せ

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 自主保全士事務局

TEL：03-6865-6083 Email:jishuhozenshi@jipm.or.jp

生産現場のオペレーターを育成してきた 幅広い製造業への活用実績とスケール

19年間の実績・約30万人の利用者

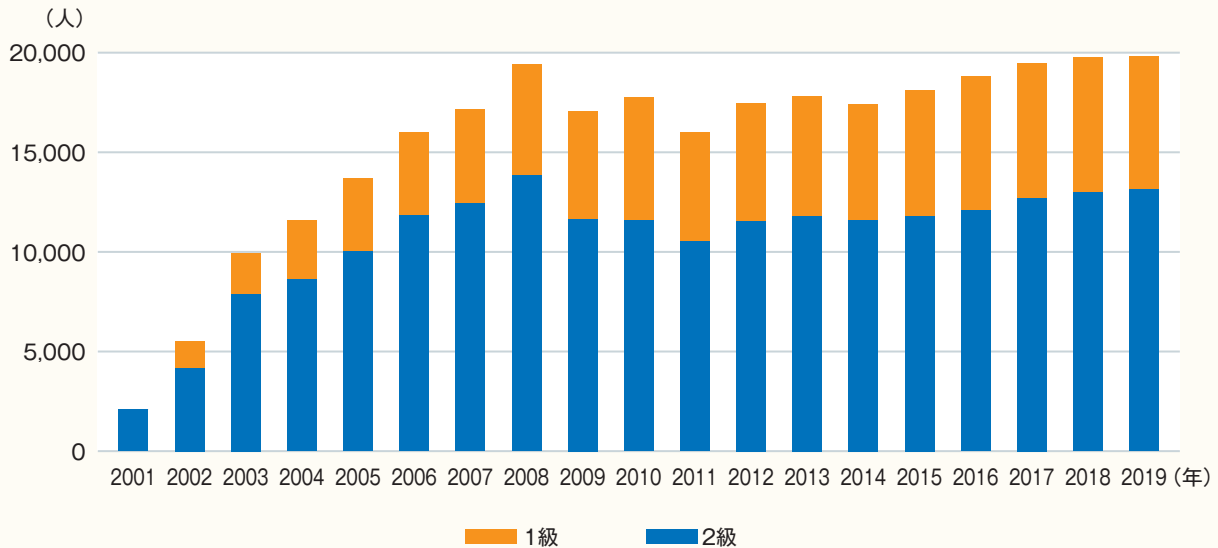
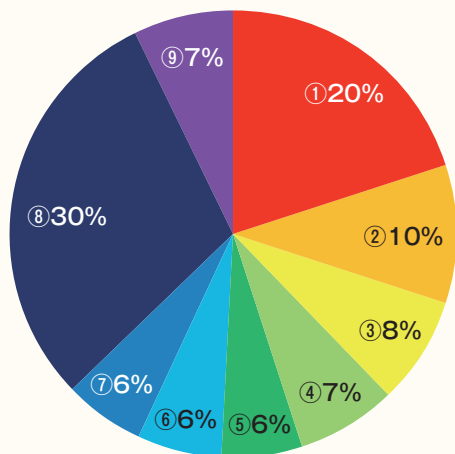


図1 級別利用者の推移 (検定試験、通信教育の合計)

参考：自主保全士検定試験申込みデータ

検定試験：23万人、通信教育：7万人の信頼ある利用実績!!

幅広い製造業の現場で活用



毎年450団体・企業で
活用中!!

- ① 輸送用機械 (自動車)
- ② 化学
- ③ 鉄鋼・非鉄金属
- ④ ゴム・プラスチック
- ⑤ 金属製品
- ⑥ 食品
- ⑦ 電気・電子部品
- ⑧ その他製造業
- ⑨ 製造業以外 (エンジニアリング等)

参考：2018年度自主保全士検定試験団体申込みデータ

図2 団体申込の業種別傾向

ライフスタイルに合わせて選べる取得方法

年イチで短期間に取得
検定試験

毎年1.4万人が受験

育成・現状レベルの客観的評価に!!

いつでもじっくり受講
通信教育
+ 認定試験

毎年5千人が受講

学びながら、レベルUP!!

利用者・企業の活用事例・取り組み例

自分の設備は自分が守る意識



自主保全士取得のメリットは、設備の専門家に任せず、**自分の設備は自分がしっかり守る意識が定着**したこと。その結果、設備がいかにとまらないようにするか、故障の未然防止はどのようにすれば良いかという意識が芽生えた。その結果、**ミスによる稼働停止件数が半減**。
(自動車系：T社)

他資格との相乗効果によるモチベーション向上



業務上必要な専門知識・技術習得を目的に資格取得を推奨。**自主保全士だけでなく、機械保全や機械加工の技能資格を合わせて持つ**ことで、理解度が深まり、生産現場に活かされている。これが、社員のモチベーションを向上させ、上位級の資格取得や、他技能取得につながる良いサイクルになっている。
(非鉄金属系：R社)

製造部門・技術部門で、専門用語の共通化



当初は、製造部門の管理者やオペレーター・専門保全が受験対象であったが、**女性・若年層や技術部門にも対象を拡大**。自主保全士の有資格者の増加により、**専門用語への理解が深まり、使用する用語の共通化**ができた。
(非鉄金属系：R社)

自主保全士100%取得を企業がバックアップ



自主保全活動を正しく理解し、実践するためのスキルを習得したことを確認するため、**職責者とオペレーター全員に、自主保全士の取得を目指す**。取得推進に際し、「合格者への資格取得支援金設立」、「テキスト無償配布」、「指導スキルに優れた講師の配属」、「受験指導会の開催」を行い、取得率がアップ。**企業のバックアップも重要**。
(化学系：A社)

製造現場のPM活動をリード



製造現場には、PM活動（「自主保全」「専門保全」「人材育成」）が不可避。**全部署にPM活動の意義を理解させ、自らがボトムアップの活動にさせるために、自主保全士取得の期待は大きい**。資格取得に向けての勉強会を開催し、試験結果を次年度の活動計画に反映している。
(自動車系：T社)

自主保全士の計画的取得



自主保全士の取得に向け、計画的な取得を促進。各部署単位で勤務体制、勤務時間に合わせた、**きめ細かな勉強会を企画、実施**。勤務の都合で勉強会に参加できない場合は、**社内イントラネットも有効活用**。近年では、試験当日の流れで**模試試験を開催**し、講師による設問の解説を実施し、合格率が大幅に向上。
(自動車系：M社)

自主保全士取得を昇格要件とした人事制度へ



クライアントの信頼関係構築のために自主保全士取得を推進しており、合格者が継続的に増加。その成果の背景には、取得に向けての試験対策サポートのほかに、**人事制度に、自主保全士取得要件を取り入れた**ことがあげられる。現場リーダーには2級、工程管理者には1級の取得を必須要件とし、クライアントからは業務クオリティが上がったと高評価だ。
(その他製造業：N社)

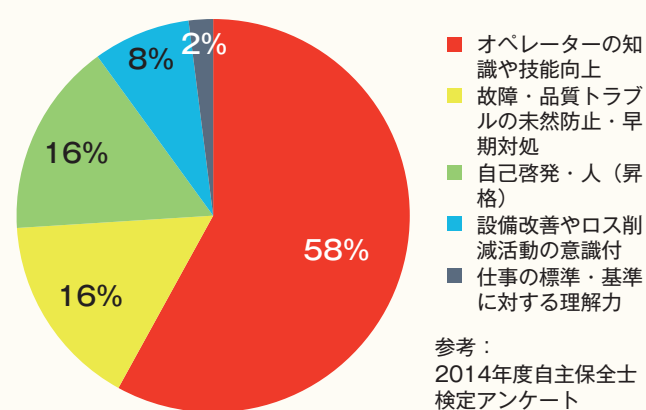


図3 利用目的



自主保全士成績優秀者受賞で高まる自信

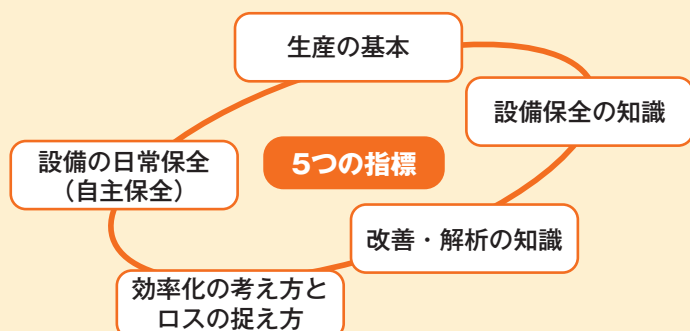


自主保全士は、検定合格で終わりではなく、検定試験で**高得点の成績優秀者の表彰式典が開催**される。自社でも成績優秀者を輩出することができ、**職場の後輩への育成に自信**がいったようだ。社内の自主保全活動の維持・普及のためにも成績優秀者の受賞を目指す取り組みを行っていく。
(食料品系：M社)

「自主保全士認定制度」の3つのポイント

①自主保全士認定制度とは？

製造オペレーターに求められる知識と技能に関して、製造部門が受け持つ保全の一部の機能や管理技術を客観的に評価するため、5つ指標で認定。検定試験および通信教育を通じて、『自主保全士』を認定し、「設備に強いオペレーター」の育成・普及を目指しています。



級	想定される役割と求められる能力
1級	職場チーム（小集団）における中心的、リーダー的な存在となり、自主保全を展開する上での計画・立案と実践指導ができる
2級	製造（生産）に関わる部門の一員として、自身の業務に従事しながら、自らが関わる設備や工程・作業について自主保全を実践できる

②自主保全士取得により期待できる効果

第三者による
公平な評価



企業の競争力強化



オペレーターの
レベルアップ



オペレーターと
他部門の共通言語



③自主保全士認定の取得方法

自主保全士認定の取得方法には、2つあります。

区分		検定試験		区分		通信教育	
名称		自主保全士検定試験		名称		自主保全士コース（通信教育）	
級		1級	2級	級		1級	2級
受験資格		実務経験4年以上	実務経験不要	受講資格		実務経験4年以上	実務経験不要
試験の形式	学科	正誤判定式100問		受講の形式	添削	全5回のレポート提出	
	実技	多肢選択式と記述式併用 計10課題程度	多肢選択式 10課題程度		認定試験	学科試験は、正誤判定式100問 実技試験は、多肢選択式100問	
	備考	学科試験+実技試験：120分			備考	郵送方式にて送付～記入～回収	
受験手数料		9,350円	7,200円	受講料(※)		33,000円	27,500円
申請期間と試験日		申請期間：毎年7月中旬～8月下旬頃 試験日：毎年10月中旬の日曜日		申請期間と開講日		申請期間：随時受付中 開講日：毎月12日締め翌月開講	
認定基準		▶学科試験75点以上かつ 実技試験75点以上		認定基準		▶在籍期間（8ヵ月）内に5単位すべてのレポートを提出し、全単位を修了 ▶修了後に、認定試験を所定の期限までに提出し、採点結果が合格基準以上	

※2021年4月開講より受講料が変更となります。
詳細は、公式サイトをご覧ください。